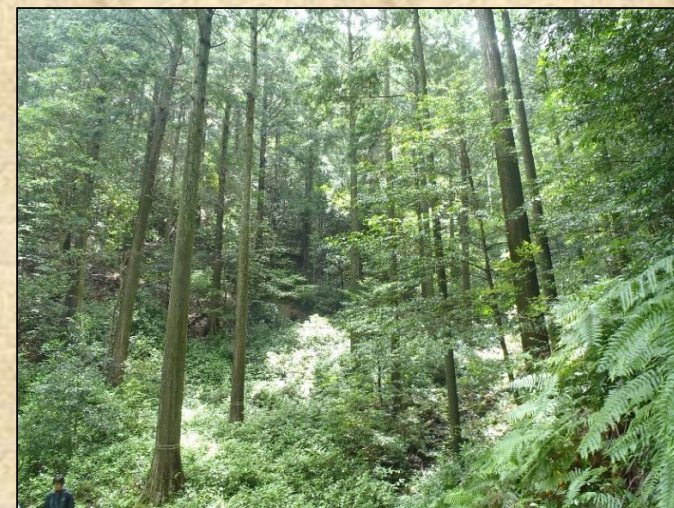
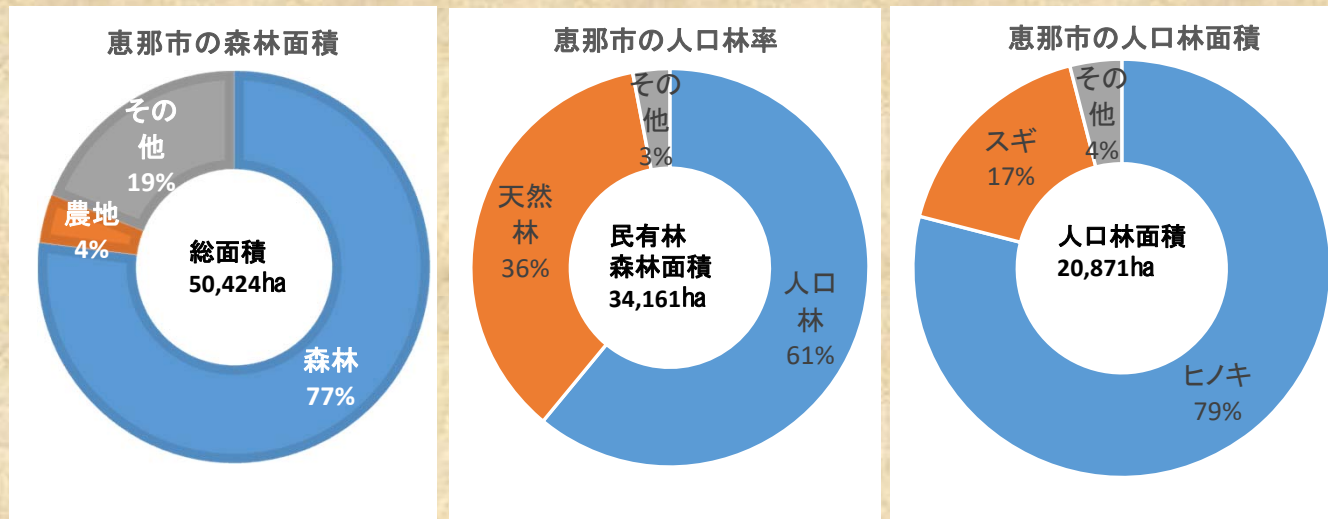


恵那市の林業施策

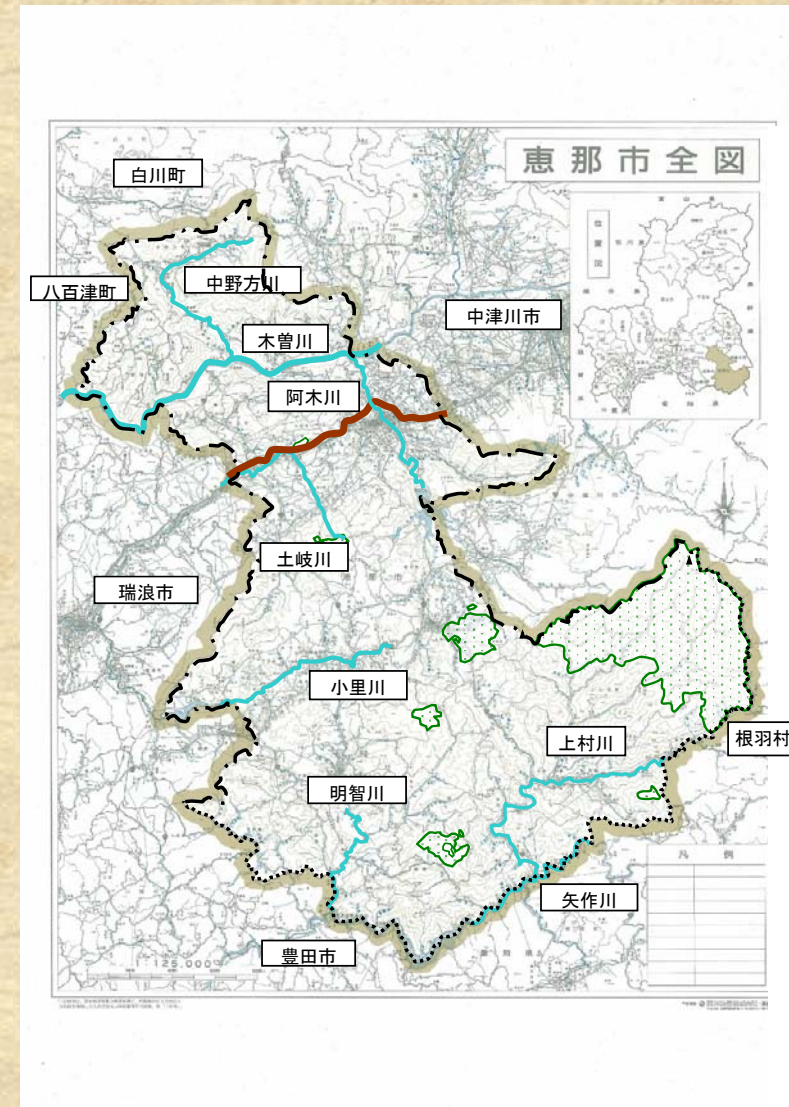


恵那市 林政課

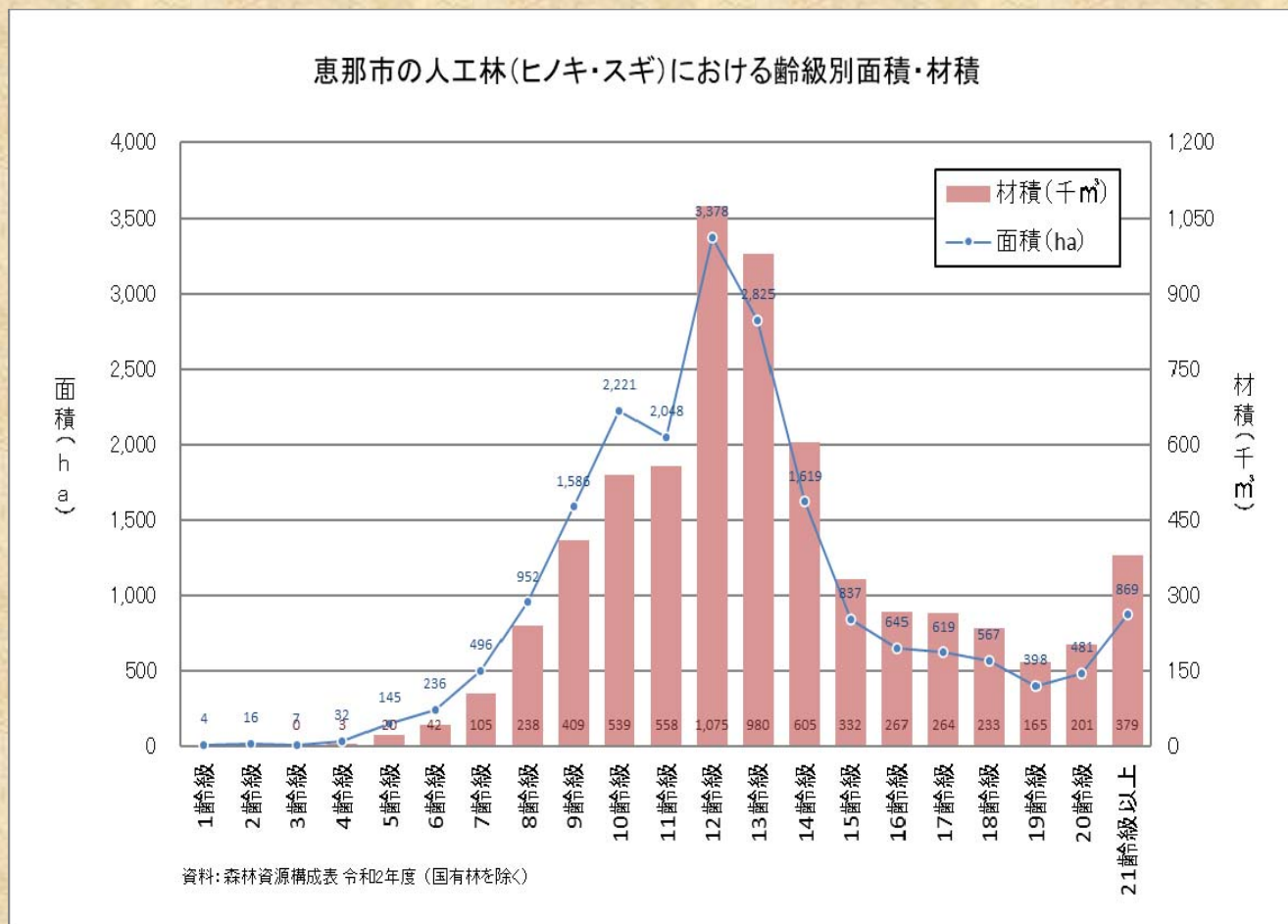
恵那市の森林の現状



- ・市内の森林面積は 38,956 haで、市の面積の 約77 %
- ・私有林の面積は 34,161 ha で、そのうち 約61% がヒノキを中心とした人工林
- ・市内の人工林のうち、樹種別ではヒノキが約78%、スギが約17%
- ・市内の山林は、木曾川・庄内川・矢作川の3水系の水源域



恵那市の森林が抱える課題



・市内のスギ・ヒノキの人工林における齢級別の構成は、12、13 齢級の間伐・主伐適齢期に達するものがほとんどで、木材を伐採する適切な時期に達しています。



・木材価格の低迷、森林・林業関係者の高齢化などの理由によって森林の整備が停滞し、森林の持つ様々な多面的機能が十分に発揮されない状態となっています。



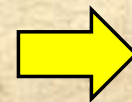
・それにより、大規模災害への危機も懸念されます。

森林の持つ多面的機能について



森林には、人々が生活するために必要な様々な機能がある。

- ・生物多様性保全機能(動植物の生息地を与える)
- ・水土保持機能(樹木が根を張り、土壌が安定化する)
- ・水源かん養機能(雨水などを土壌に貯蔵し水の循環を調整する)
- ・快適環境形成機能(騒音や粉塵、風害等を防止する)
- ・保健文化機能(潤いある自然景観を形成する)
- ・木材生産機能(木材等の林産物を安定的に供給する)



人々の生活環境が安全に形成されるよう、森林が十分に機能を発揮するためには、「間伐、主伐、再造林をして森林を守っていくこと」が必要。

「えなの森林づくり実施計画」 R4年度～R7年度

えなの森林(もり)を活かして守って次世代へ
～市民の力で持続可能な地域循環型の森林(もり)づくり～



未来への枠組み

森林づくりを実現するのに必要な取り組み

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ①観光景観林と生活保全林のゾーニング | ③SDGsに対応した林業への転換 |
| ②コロナ社会に応じた林業 | ④えなの森林づくり実施計画の見直し |

えなの森林を活用する

森林資源の活用を進めるための取り組み

- | | |
|--------------------------|--------------|
| ①木質バイオマス利用の拡大策の推進(農林業連携) | ⑤公共施設の木造化 |
| ②木の駅プロジェクトの推進 | ⑥えなの木省エネ住宅支援 |
| ③薪販売の推進 | ⑦市有林の協働活用 |
| ④木製品の魅力発信 | |

えなの森林を守る

森林の持つ多面的機能を守るための取り組み

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ①治山事業の計画的な実施 | ⑤林道等の整備 |
| ②カーボンニュートラルに向けた林業 | ⑥スマート農林業の推進(農林業連携) |
| ③地籍調査・境界明確化の推進 | ⑦市行造林の有効活用 |
| ④計画的な間伐の実施 | ⑧獣害対策の徹底(農林業連携) |

えなの森林を支える力

森林を支える人・地域を育てる取り組み

- | | |
|------------------|---------------|
| ①小中学校での森林教育 | ④森林教育の活動拠点づくり |
| ②技術者育成の支援 | ⑤木育の推進 |
| ③農林業体験ツアー(農林業連携) | ⑥木エココンテストの再編 |

・恵那市にある森林の多面的な機能が十分に発揮され、また、森林が持続的に利用可能であるよう永続的に管理されていくことを目的として、今後、取り組むべき課題を解決するために、今後行う施策や目標を示したもの。

・実施計画は、森林づくりに関する見識を有する市内の森林組合、民間事業者、NPO等のメンバーで構成された「えなの森林づくり推進委員会」を中心にして策定。

・委員会では、実施計画に基づいて行われた取り組みの成果などの検証を行うとともに、施策に対する提言と進捗管理も行っている。

・恵那市における森林づくりの基本的な施策は、この実施計画と市の総合計画との整合を図りながら進められている。

具体的な取り組みについて

1. 森林資源の活用を進めるための取り組み

①木の駅プロジェクトの推進

未利用材の利活用を進めるため、木の駅プロジェクト実行委員会による地域の未利用材の搬出への補助を行い、間伐の促進を行っている。

- ・補助額 3,000円/㎡ (県 1,500円、市 1,500円)

木の駅プロジェクト

間伐した山の木を出荷し、地域のお店で使える地域通貨券(モリ券)に交換。出荷した木材はチップ工場、イチゴハウス施設等で活用。平成21年に全国で初めて「笠周地域」にプロジェクトが発足。

木の駅搬出量(実績)

年度	団体数	搬出量
R4	4団体	755t
R3	4団体	771.6t
R2	4団体	926.57t
R1	4団体	867.41t
H30	4団体	1094.91t

市内 4地域で実施。

- ・笠周地域 (中野方、飯地、笠置)
- ・やまおか (山岡町)
- ・くしはら (串原)
- ・えなにし (三郷町、武並町)



1. 森林資源の活用を進めるための取り組み

② 恵那市木工作品の展示

市内における林産物の活用方法と、木竹製品を通じて温もりや工芸技術の素晴らしさを周知するため、市内の事業者や職人から地域の林産物を活用して製作した木竹製品を募り、岐阜市の木遊館で木工作品を展示した

・令和5年度 出展者7団体



③ 公共施設の木造化

地域産材の利用を促進するため、公共施設の整備において木造化や木質化を推進している。

- ・恵那市議場(内装木質化) R3年度
延べ面積:192.53㎡
- ・おさしま二葉こども園(木造化) H29年度～30年度
構造:木造平屋建て(一部2階建て)
延べ床面積:2,269㎡
- ・武並小学校屋内運動場(内装木質化) H29年度
延べ床面積:935㎡



2. 森林の多面的機能を守るための取り組み

① 治山事業の実施

土砂流出の恐れのある荒廃溪流に対する堰堤の施工や、山腹の崩壊地への施工等の治山事業を国・県と連携して実施。

② 計画的な間伐の実施

市有林の間伐(R4年度)

- ・皆伐面積(一部再造林) 2.41ha
- ・間伐面積(切捨、搬出) 77.27ha
- ・木材搬出 3,173m³
- ・造林作業路整備 2,688m

民有林の間伐(R3年度)

- ・間伐面積 508ha
- ・木材搬出 6,542m³

市有林間伐・皆伐(実績)

年度	面積	搬出量
R4	79.68ha	2,688m ³
R3	52.31ha	2,774m ³
R2	73.14ha	1,479m ³
R1	61.69ha	1,053m ³
H30	86.79ha	1,713m ³



③ 林道の整備

効率的な森林施業や木材搬出が行われるために林道の維持管理や補修工事、林道改良工事、舗装工事等を実施。

2. 森林の多面的機能を守るための取り組み

④ 民有林の間伐推進のための補助制度

民有林での間伐を推進するために、森林組合等の林業者が行う民有林間伐や木材搬出への補助、間伐に必要な森林作業道整備の補助を行っている。

- ・間伐実施事業(民有林への間伐補助金)
21,000円/ha
- ・間伐材利用促進事業(民有林の間伐材搬出補助金)
1,000円/m³
- ・森林整備作業路開設事業(間伐における作業道整備補助金)
1,200円/m
- ・スマート林業推進事業(ドローンなどICTを活用した森林整備)

間伐推進補助制度(実績)

年度	間伐面積	間伐材搬出量	作業路整備
R4	213.06ha	5,864.202m ³	1,547m
R3	264.02ha	7,861.890m ³	1,588m
R2	267.45ha	6,484.482m ³	300m
R1	287.92ha	6,738.222m ³	582m
H30	363.92ha	7,510.337m ³	806m



2. 森林の多面的機能を守るための取り組み

⑤鳥獣害の対策 野生鳥獣による森林被害防止のため、農業被害対策との連携を図りながら防除対策や捕獲を行っている。

- ・有害鳥獣捕獲奨励補助金(捕獲した有害鳥獣に対する報奨金)
 - ・イノシシ成獣30,000円 幼獣17,000円 ・ニホンジカ成獣30,000円 幼獣17,000円
 - ・ツキノワグマ25,000円 ・ニホンザル30,000円 ・カモシカ8,000円
 - ・アライグマ、ヌートリア、野ウサギ、カラス、カワウ各1,000円

有害鳥獣捕獲(実績)

年	イノシシ	ニホンジカ	ニホンザル	カラス	カワウ	アライグマ	ハクビシン	合計
H25	638頭	4頭	39頭	205羽	9羽	0頭	0頭	895
H26	732頭	20頭	28頭	286羽	30羽	0頭	0頭	1,096
H27	720頭	31頭	34頭	170羽	0羽	0頭	0頭	955
H28	782頭	23頭	71頭	159羽	7羽	1頭	2頭	1,045
H29	629頭	56頭	17頭	109羽	8羽	6頭	7頭	832
H30	488頭	58頭	22頭	92羽	10羽	0頭	2頭	672
R1	267頭	74頭	38頭	103羽	61羽	0頭	0頭	543
R2	537頭	237頭	37頭	160羽	20羽	28頭	0頭	1020
R3	231頭	245頭	22頭	70羽	19羽	36頭	0頭	623
R4	511頭	431頭	41頭	73羽	12羽	56頭	13頭	1,137

2. 森林の多面的機能を守るための取り組み

- ・有害鳥獣捕獲対策事業補助金
(各地区における有害鳥獣捕獲の罠等設置に対する補助金)
恵那市猟友会 13支部
- ・狩猟免許取得支援補助金
(狩猟免許の取得者、更新者に対し経費の一部を補助)
R4年度 40人
- ・農作物被害防止対策事業補助金
(集団による電気牧柵、ワイヤーメッシュ設置等の補助)
R4年度 11件



現状・課題

- ・取っても取っても個体数は増加傾向であるが、柵の設置で農業や生活被害は減少している。
- ・個体数増加の原因として、温暖化により冬でもエサがあり自然死しなくなった。
- ・木材価格の低迷により山の整備をしなくなり、里山近くの山を住み家とし、農作物を認識した。
- ・猟友会も高齢化しており、銃の所有者は減少傾向にある。(わな所有者は横ばい)
- ・檻を設置しても、捕獲できるとは限らない。
- ・ジビエとしての活用も安定供給が困難。
- ・高齢化により離農、集落の高齢化により地域活動が困難。

3. 森林を支える人、地域を育てる取り組み

①小中学校の森林教育

子どもたちが森林の大切さや必要性を学び、人の生活や環境と森林との関係について理解を深めるための森林教育を行っている。

(森の健康診断、自然散策、間伐体験、クラフト教室)

R4年度 市内の小中学校 11校で実施



②企業との協働による森林づくり

コカ・コーライーストジャパン(株)と中野方町地域協議会、恵那市、岐阜県との間において「水源の森づくりに関する協定」を締結し、東海工場(愛知県)の水源域である中野方町において、森林保全活動や自然環境保護の大切さを学ぶ環境教育プログラムを協働で行っている。

コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト

春(5月)と秋(9月)の2回開催

5月 水源地散策、田植体験

9月 間伐体験、稲刈体験



3. 森林を支える人、地域を育てる取り組み

③技術者育成の支援

1. 林業機械安全講習会(山しごと手習い塾)

森林整備に取り組む新たな人材発掘と育成の場とするために、森林所有者や一般市民を対象に森林整備の技術講座を行っている。

基礎から応用まで受講者のレベルに応じた技術講座を開催。
各講座定員10名。



2. 担い手育成支援事業

将来にわたって森林整備の担い手確保を行うため、林業事業体の林業技術者の育成及び林業労働者の安全確保に伴い生じた経費に対し補助を行っている。

- ・林業技術者育成事業
林業関連資格の試験及び受講料の補助
- ・従事者支度支援事業
林業関連装備を整えるために必要な備品の購入費を補助
(新規従業員、5年目従業員)
- ・林業就業移住者支援事業
県外から林業事業社へ就職する方に補助



3. 森林を支える人、地域を育てる取り組み

④えなの木、もりの木、気になる木コンテスト

日常生活の品々のなかで、木の持っている美しさ、やさしさ、など「木の良さ」が広く理解され、認識されることを目的とした木工作品のコンテストを開催。

作品は市内の小中学生、一般の方から募集。

・R5年度

応募作品数 小学生、中学生、一般 合計 125点



4. 森林づくりを実現するのに必要な地域の枠組みを構築する取り組み

①環境保全林と木材生産林のゾーニング

森林の多面的機能を発揮させるために、森林の地理的特性にあわせた方針を定めて森林整備を行う必要がある。



自然条件や林道の計画などを考慮して、林業経営を行っていく「木材生産林」と、林業経営が難しい森林は環境を保全するための「環境保全林」に区分。

恵那市の林業における課題

【担い手】

- ・小規模で零細な経営体が多い
- ・林業経営者に経営力が必要
- ・森林管理者、林業技術者の育成が必要

【生産面】

- ・木材(素材)価格が安すぎる
- ・路網密度が低く生産性が上がらない
- ・高い生産経費と低い素材価格により仕事が成り立たない
- ・高性能な林業機械は高くて手が出ない
- ・施行の集約化が進まず機械稼働率が上がらない
- ・安定した大規模な需要とそれに応える安定供給の体制が出来ない

【流通面】

- ・流通が多段階で利益が分散してしまう
- ・大規模加工業者が近くにないため、輸送コストがかかる
- ・バイオマス発電が増加してチップの需要が増えている
- ・市内にバイオマス関連施設がない
- ・他産業との連携が十分に出来ていない

【製品化】

- ・市内には木材の加工業者が少ない
- ・現在のニーズに合った製品を開発する仕組みが無い
- ・恵那の森林を十分にPR出来ていない
- ・稼働している製材所が少ない

【森林環境】

- ・間伐適齢期に達している豊富な森林資源が有効利用できていない
- ・手入れがされない森林が増え、災害の恐れがある
- ・切捨間伐による未利用材が森林に放置されている
- ・植林がされていないため、将来森林資源が枯渇する恐れがある